

平成 22 年 2 月 18 日
国立国会図書館

第 1 回 公共図書館におけるデジタルアーカイブ推進会議 パネルディスカッション

1 開催日・場所

平成 22 年 2 月 18 日 (木)
国立国会図書館東京本館新館講堂
同 関西館第一研修室 (TV 会議システムで中継)

2 出席者

モデレータ：常世田良 (日本図書館協会理事・事務局次長)
パネリスト：松田昇剛 (総務省情報流通行政局情報流通振興課統括補佐)
川畑卓也 (奈良県立図書館情報館総務企画グループ主査)
坪田秀彦 (長野県上田市立上田図書館長)
丸山高弘 (山梨県山中湖村山中湖情報創造館長)
佐藤毅彦 (国立国会図書館関西館電子図書館課長)

3 主な発言要旨

- ・ 論点を整理すると、①対象コンテンツ②著作権の問題③ノウハウの欠如④予算⑤図書館員の心構え。
- ・ 流通している出版物のデジタル化は国が行うべき。地域の図書館におけるデジタル化の対象は、その地域の資料や、その館独自に所蔵している資料ではないか。
- ・ 資料の歴史的、文化的価値をアピールすることが重要。
- ・ 過去の資料から、現在抱えている課題についての解決法や、何らかの気づきを得られる可能性がある。それもデジタルアーカイブの大きな目的ではないか。
- ・ 地域の出版物は、地元の図書館の方が許諾を得やすい可能性がある。
- ・ 他の図書館で所蔵している資料であっても、部分的にはデジタル化が必要な場合がある。逆に同じ資料を色々な図書館がデジタル化しても無駄なことであり、その辺りの交通整理がうまくできると合理的である。
- ・ 制度的には、国立国会図書館は立法府、公共図書館は文部科学省の所管となり、上下関係はないが、ノウハウを広めていくという点で連携していけないのではないか。
- ・ デジタルアーカイブの業務を日々の業務の中に大きな負担にならない形でルーティン化してしまうと、すんなり作業として受け入れられる。また、地域資料を収集してホームページに掲載している人々と連携ができれば効率的である。